

# 神玉

KAMIDAMA PROJECT  
プロジェクト「神生」

## はじめに

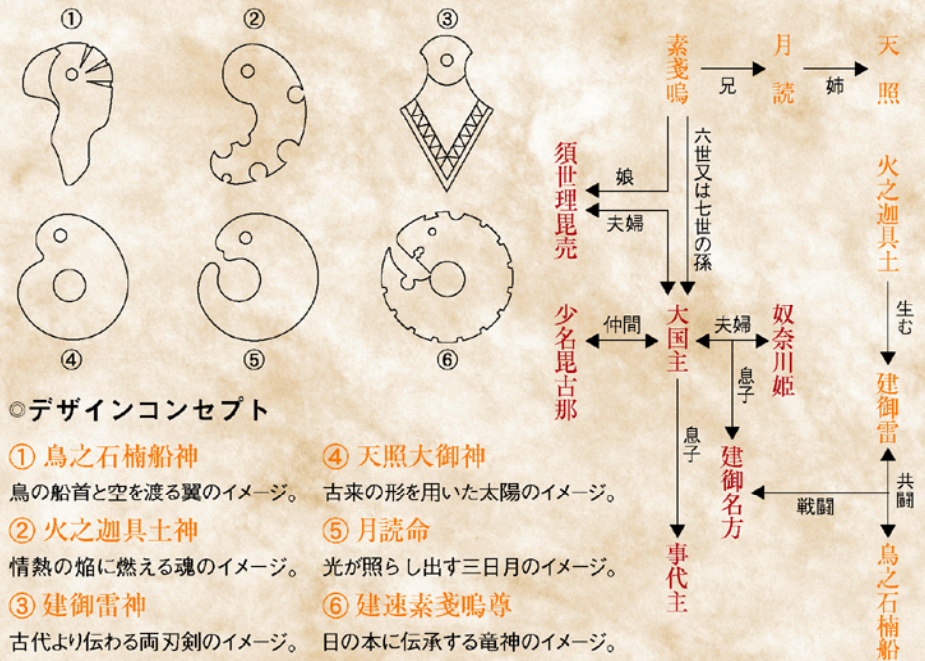
「神玉プロジェクト」とは、八百万ある大自然(神)をデザインする計画であり、既に古代でデザインされている品の「名寄せ」と未来に繋ぐ「新しい創作」を目的とした物語であります。  
 勾玉と呼ばれる品は「八百万ある内の一つのデザインでしかない」という哲学のもと行われていきますのでご理解ください。  
 「神話」に在る天地を統べる神とは、自然と調和した「八百万の英雄」を表します。

## コンセプト

「悠久の時に結ばれし絆を、今再び取り戻す」がテーマになります。  
 よってジュエリー等の貴金属でなく、古来と同様にお守りとする神玉(かみだま)をデザインしました。  
 まずは日本の神である八百万の神(やおよろずのかみ)から、糸魚川に縁のある神(万葉集や古事記・日本書紀で語られている)の名前をもらい、その神に見合ったデザインや加護・効能を示しています。  
 これにより糸魚川(日本)のヒスイで造らなければ意味のない品となります。(ミャンマー産のヒスイには、日本の神の名は相応しくないからです。)そして再び、この糸魚川がヒスイ文化発祥の地となります。  
 色や質に頼らずに、ジュエリーとは違った価値を見出す神玉は、糸魚川産ヒスイの真の魅力を引き出すものになると考えています。

## 天津神・国津神

古代と現在を結ぶ計画の為【天と地】には、太古から存在するデザインを用います。天の神格化である天照大御神に「さる玉」を、大地の神格化の大国主命には「獣形」を用いて天地を表現していきます。  
 右にある図の天津神6体と国津神6体の、計12体を現在は考えています。



## 時代を超えて

現在では仏教が広がり仏の国となりつつありますが、古来から日本には八百万の神(やおよろずのかみ)がいた神の国でした。これらの神はヒスイと同時期に信仰が衰退しているようです。よって彼らの復活なしにヒスイ文化の復活もありえません。八百万もの神玉を誕生させるには、何世代にも渡る取り組みが必要になります。